



# 全日電工連

- 創立60周年記念 第33回電気工事業全国大会 ……1～7面
- 優秀施工者国土交通大臣顕彰 ……8面
- 定期講習会場一覧 ……9面
- 青年部活動報告（中部） ……12面

<http://www.znd.or.jp/>

全日本電気工事業工業組合連合会 〒105-0014 東京都港区芝2-9-11 全日電工連会館1F TEL 03 (5232) 5861 FAX 03 (5232) 6855 E-mail zennichi@znd.or.jp

## 70周年に向けて更なる飛躍を誓う

### 創立60周年記念 第33回電気工事業全国大会

### 災害復旧活動に傾注

全日本電気工事業工業組合連合会主催、北陸電気工事組合連合会主管による創立60周年記念第33回電気工事業全国大会が10月16日と17日、石川県金沢市内で開催された。全国から組合員、青年部員など大勢の参加者が集結した大会は、電気工事業の進むべき指針を確認し、次の70周年に向けて更に飛躍する組織づくりを目指す有意義な大会となった。

### 金沢市で開催

創立60周年記念となる全面的な支援をお願いし、今大会のメインテーマは「輝く明日へ、社会を照らす使命のリレーを、今問たちと共に、心をひとつから」。サブテーマに「知ろう、語ろう、伝えよう、電気工事の魅力と誇り」を掲げ、組合員との道を拓く機会として情報共有と更なる飛躍の方策を討議した。

式典で米沢会長は、台風19号で被災された方々にお見舞いを述べた後、「このよきな状況を鑑み、大会開催の可否も検討したい。われわれは、国民の豊かな生活や産業基盤のインフラを担うという強い自覚と自負心に加えて、24時間休む暇もありません。送電線路の維持と義務をいつの時代も欠かさず、急変



に変化する時代に遅滞することなく、潮流を読み、信念と情熱で常にスピーディな成長を続けていくことを強く訴え、「全日電工連は次の70周年に向けて、さらなる安全・安心を提供する」という原点に立ち、お客様目線で社会の信頼に込められる組織を目指す努力を重ねていく」と述べた。

大会式典では、経済産業大臣表彰・全国中小企業団体中央会表彰・全日電工連会長表彰などに続き、石川県へ記念品として電気自動車贈呈された。その後、来賓祝辞、優良事業工組表彰、優良事業工組・青年部優良活動事業発表、意見交

換会の報告に続き、全国から集まった参加者共通の総意として大会決議を採択した。

引き続き、第4回電気工事技能競技全国大会と第34回電気工事業全国大会の紹介が行われた。

式典前には、より一層の知見を深める場として組合活性化研修会を開催。10月16日には、テーマに基づき意見交換会を実施するなど充実した大会となった。

大会会場に隣接する地下広場では、全日電工連60年の足跡と業界PR、企業展示なども行われた（全国大会関連記事は2〜7面にも掲載）。

MITSUBISHI ELECTRIC  
Changes for the Better

産業用のさまざまな空間・用途に対応します。

産業用照明器具  
三菱電機照明株式会社

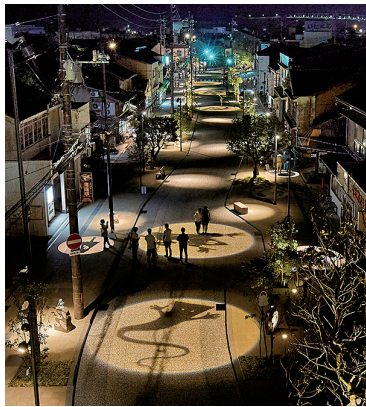
三菱LED 検査

### 鳥取県 わがまち自慢

鳥取県西部に位置する境港市には今でもたくさんの妖怪が棲んでいます。妖怪マンガ家、水木しげる氏が境港市出身に因んで1993（平成5）年7月に水木しげるロードが誕生しました。誕生から25周年となる2018（平成30）年7月、大規模なリニューアルが行われ、懐かしい昭和レトロな街並みはそのままに、歩道が拡がり休憩所も増えました。妖怪プロンズ像は妖怪の棲む場所によりゾーン分けなど、すべて再配置され、JR境港駅から続く約800mの通りに177体の妖怪プロンズ像が立ち並びます。

また新たに、夜にはロード全線に妖怪たちの影絵の照明が投射されたり、プロンズ像のライトアップが施され、訪れるお客様がいつでも快適に楽しめるよう生まれ変わりました。

緻密な照明制御が、効果的な音響と相まってあたたか妖怪が棲んでいるかのような街路を創り出しています。このプロジェクトが2018年には国土交通省のまちづくりの計画部門での最優秀賞となる「創意工夫大賞」を受賞。続いて、皆様もご承知の「照明学会」の2019年照明デザイン賞「最優秀賞」も受賞しました。ライトアップは日没から22時まで一年中、毎日行われています。昼と夜では違う雰囲気を楽しむ妖怪ワールド「水木しげるロード」にぜひお越しください。



夜の水木しげるロード

# 使命のリレーを、今ここから

第33回 全国大会

## 大会 大式

### 知ろう、語ろう、伝えよう、 電気工事の魅力と誇り



開会宣言する  
北陸電工連 前田 副会長

業組合および電気工事業界の発展に貢献し、その功績が特に顕著な方々に経済産業大臣表彰と全国中小企業団体中央会会長表彰が行われた。

経済産業大臣表彰は、小林功副会長、安田耕一理事、兵庫県電工組の向山和義理事長に宮本周司経済産業大臣政務官から表彰状が贈られた。

全国中小企業団体中央会会長表彰は、嶋野貞雄理事と後藤田裕監事に石川県中小企業団体中央会の石野圭祐事務局長から表彰状が贈られた。

続いて、全日電工連の役員として50周年記念大会以降、副会長を6年以上務めた方への感謝状として米沢会長が全日電工連の礎を築いた先達に敬意を表するとともに、今後の取り組みや方針などを述べた。

また、全日電工連の事業遂行功労者として、業界理解促進交流事業を推進した全国青年部協議会（団体受賞）と第1回・第2回電気工事技能競技大会の実務総括責任者を務めた新潟県電工組の斎藤賢副理事長が表彰された。

谷本石川県知事は、県に対する電気自動車への贈り物に述べた後、「近年、地震や集中豪雨など大きな災害が全国各地で相次いで発生しており、各地の災害において多くの会員の皆さま方に復旧作業に尽力をいただいていることに感謝を申し上げます。改めて申し上げます、電気設備が高度化・多様化する中、熟練した技術と豊富な知識は重要なものだ。こうした中、全国各地から会員の皆さま方が一堂に会して会員相互の交流が深まる事は大変意義あるものだ」と述べた。

北陸電力の久和進代表取締役会長は「貴連合会60年の歴史は、我が国の「工業高校生電気工事業」が金賞を受賞。また、銀賞3賞5事業が選ばれ表彰された。表彰後には、金賞を受賞した埼玉電工組と昨年開催された第3回青年部優良活動発表会で最優秀賞を受賞した福岡県電工組青年部が事業内容の発表を行った。

10月16日に、未来の電気工事業の働き方や人材



60周年記念事業として  
石川県へE.V車を贈呈

「豊かな生活と産業基盤を支えるインフラを担う、その大きな責任を自らの中で皆さま方にはご活躍いただきたい」と述べた。

谷本石川県知事は、県に対する電気自動車の贈り物に述べた後、「近年、地震や集中豪雨など大きな災害が全国各地で相次いで発生しており、各地の災害において多くの会員の皆さま方に復旧作業に尽力をいただいていることに感謝を申し上げます。改めて申し上げます、電気設備が高度化・多様化する中、熟練した技術と豊富な知識は重要なものだ。こうした中、全国各地から会員の皆さま方が一堂に会して会員相互の交流が深まる事は大変意義あるものだ」と述べた。

北陸電力の久和進代表取締役会長は「貴連合会60年の歴史は、我が国の「工業高校生電気工事業」が金賞を受賞。また、銀賞3賞5事業が選ばれ表彰された。表彰後には、金賞を受賞した埼玉電工組と昨年開催された第3回青年部優良活動発表会で最優秀賞を受賞した福岡県電工組青年部が事業内容の発表を行った。

10月16日に、未来の電気工事業の働き方や人材

#### 経済産業大臣表彰



兵庫県電工組  
向山 和義 理事長



全日電工連  
安田 耕一 理事



全日電工連  
小林 功 副会長

#### 全日電工連会長表彰



新潟県電工組  
斎藤 賢 副理事長



全国青年部協議会  
大上 真一 会長



全日電工連  
尾池 一仁 相談役

#### 全国中小企業団体中央会会長表彰



全日電工連  
後藤田 裕 監事



全日電工連  
嶋野 貞雄 理事

第33回 全国大会

輝く明日へ 社会を照らす

祝辞を頂いた  
ご来賓の方々



北陸電力  
久和 進 代表取締役会長



山野 之義 金沢市長



谷本 正憲 石川県知事



宮本 周司 経済産業大臣政務官



馳 浩 衆議院議員



技能競技大会の概要報告  
をする小林 副会長



閉会のことばを述べた  
藤沢 副会長



交流会開会あいさつをする  
北陸電工連 洪谷 副会長

確保・育成対策などをテーマに開催された意見交換会については、全体総括とテーマごとに集約された意見を代表者が報告した。  
大会決議は、広く社会の期待と付託に応えるため、さらに強い組織と結束を目指し、「技術革新に先行する技術者の育成強化を図り、信頼される街の電気ドクターを目指す」「業界の発展・繁栄に向け、正しい市場作りをめざす」「地域社会とともに歩み続ける業界として、スピード感を持って各種事業を具現化」を花元英彰副会長が表明し、決議文を米沢会長に手渡した。  
来年開催される第4回電気工事技能競技全国大会については、技能競技委員会を担当する小林副会長が開催概要を報告した。

開催日時は令和2年11月25日(学科競技は24日)、開催場所は神奈川県横浜アリーナ。出場選手は一般の部が各工組から1名、各ブロックにブロック枠1名(関東は2名)、女性の部が各ブロックから1名、高校生の部が全国工業高等学校長協会の定める9ブロックから選出される。これにより66名から最大76名となる出場選手が各部門の競技課題で競い合う。選手の募集要項などについては、来年2月の臨時総会(合同会議)で公表される予定だ。  
また、令和3年に滋賀県で開催される第34回電気工事業全国大会の開催地あいさつでは、関西ブロックの役員・組合員・青年部員が映像とともに関西各県と開催地である滋賀県のPRを行い参加を呼び掛けた。  
藤沢一三副会長は閉会の言葉で「電気工事業界を取り巻く環境は、多少の地域間格差はあるものの、全般的には安定した状況だと考えている。来年に迫った送電の法的分離をビジネスチャンスとして捉えるとともに、大会決議のとおり、お客様に信頼される街の電気ドクターを目指す」と決意を述べた。

江戸時代、加賀百万石の城変遷し、技術も急激に進化するなか、我々はいつの時代にあってもお客様に24時間において「輝く明日へ社会を照らす使命のレレーを、ここから」をメインテーマに掲げ「知ろう、語ろう、伝えよう、電気工事の魅力と誇り」をサブ・テーマに創立60周年記念 第33回電気工事業全国大会を開催の皆様の協力により開催できますことを心から感謝申し上げます。  
昭和・平成・令和と時代は

江戸時代、加賀百万石の城変遷し、技術も急激に進化するなか、我々はいつの時代にあってもお客様に24時間において「輝く明日へ社会を照らす使命のレレーを、ここから」をメインテーマに掲げ「知ろう、語ろう、伝えよう、電気工事の魅力と誇り」をサブ・テーマに創立60周年記念 第33回電気工事業全国大会を開催の皆様の協力により開催できますことを心から感謝申し上げます。  
昭和・平成・令和と時代は

大会決議



全日電工連 副会長  
花元 英彰

江戸時代、加賀百万石の城変遷し、技術も急激に進化するなか、我々はいつの時代にあってもお客様に24時間において「輝く明日へ社会を照らす使命のレレーを、ここから」をメインテーマに掲げ「知ろう、語ろう、伝えよう、電気工事の魅力と誇り」をサブ・テーマに創立60周年記念 第33回電気工事業全国大会を開催の皆様の協力により開催できますことを心から感謝申し上げます。  
昭和・平成・令和と時代は

以上関係行政並びに諸団体関係企業に対し一層のご指導ご支援をお願い申し上げます。また、創立70周年に向け、我々組合員は広く社会の付託に応えるためさらに強い組織として、ここに決意を込めて、決議する。  
令和元年10月17日



会長表彰(役員功労)



左から稲垣氏、藤田氏、前川氏、上村氏、加藤氏、北川氏

全日電工連創立60周年記念 第33回電気工事業全国大会  
各表彰受賞者

(敬称略)

経済産業大臣表彰

- 副会長 小林 功
- 理事 安田 耕一
- 兵庫県 理事長 向山 和義

全国中小企業団体中央会会長表彰

- 理事 嶋野 貞雄
- 監事 後藤田 裕

全日本電気工事業工業組合連合会感謝状

- 相談役 尾池 一仁
- 前相談役 前村 隆規
- 前相談役 山野 國廣

全日本電気工事業工業組合連合会事業功労者表彰

『業界理解促進交流事業功労者表彰』

【団体受賞】

全日本電気工事業工業組合連合会全国青年部協議会

『電気工事技能競技全国大会事業功労者表彰』

第1回・第2回大会 実務総括責任者  
(新潟県 副理事長) 齋藤 賢

全日本電気工事業工業組合連合会会長表彰(組合役員功労)

- |     |       |       |
|-----|-------|-------|
| 富山県 | 藤田 淳一 | 前川 喜男 |
| 石川県 | 稲垣 健英 | 上村 和弥 |
| 福井県 | 加藤 和久 | 北川 孝幸 |

# 組 合 活 性 化 研 修 会

第33回 全国大会

## 3ジャンル・9事業を発表

### 全国工組の特色ある事業を発表

事例発表事業

ジャンル	発表順	工組	支部 / 青年部等	事業名
共同経済事業	1	富山	本部	計器取次店業務の委託拡大
	2	香川	本部	引込線計画張替工事の実施
	3	鹿児島	鹿児島支部 鹿児島支部青年部	鹿児島市「天文館ミリオネーション」設置事業
人材確保・育成事業	4	北海道	札幌支部青年部	教育機関連携事業 謎知る追求バラエティー「電気の魅力を知ッテQ」
	5	三重	四日市支部	工業高校生のインターンシップの受入
	6	島根	本部	組合員各社の新入社員の集合教育実施について
IT・外国人・女性活躍 時代に対応する事業	7	新潟	本部	組合のIT化推進事業 ～組合イントラネット・Web会議システムの導入～
	8	群馬	本部 / 青年部	外国人留学生に対する電気工事・電気設備専門技術の教育支援
	9	京都	本部	女性部会設立

優良事業工組表彰は今回で第4回となり、また、青年部優良活動発表会は昨年度に第3回を終え、数多くの全国各地の工組・支部・青年部の素晴らしい事業が広く周知され、他工組等で事業展開される事例も多くなってきている。

優良事業工組表彰は今回で第4回となり、また、青年部優良活動発表会は昨年度に第3回を終え、数多くの全国各地の工組・支部・青年部の素晴らしい事業が広く周知され、他工組等で事業展開される事例も多くなってきている。



閉会あいさつをする小野寺総務・財政委員長



趣旨説明をする藤沢副会長

も行った。

そこで、より一層の知見を深める場として、第4回優良事業工組表彰イベントを54事業および昨年度実施した第3回青年部優良活動事例10事業の計64事業の中から、幅広く様々な事業を学ぶことを選考基準に、「共同経済事業」「人材確保・育成事業」「IT・外国人・女性活躍に係る時代に対応する事業」の3ジャンルに分けて9事業（左表）の事例発表を組合活性化研修会で行った。各ジャンルの発表後には質疑応答も行った。



事例発表後に質疑応答



埼玉県の事業を発表する佐藤隆行常務理事



福岡県青年部事業を発表する斉藤勢一青年部会長

#### 第4回 優良事業工組表彰 受賞組合

	工組名	事業名
金賞	埼玉県電気工事工業組合	工業高校生電気工事士資格取得支援事業
銀賞	新潟県電気工事工業組合	組合のIT化推進事業
銀賞	群馬県電気工事工業組合	外国人留学生に対する電気工事・電気設備専門技術の教育支援
銀賞	熊本県電気工事工業組合	電気系教育機関との交流事業
銅賞	三重県電気工事工業組合	工業高校生のインターンシップの受入
銅賞	島根県電気工事工業組合	組合員各社の新入社員の集合教育実施について
銅賞	徳島県電気工事工業組合	安全・安心な地域社会づくりのための防犯活動
優良賞	山形県電気工事工業組合	職業訓練法人山形県電気工事技術協会の取り組み
優良賞	石川県電気工事工業組合	「業界PR冊子」の作成
優良賞	滋賀県電気工事工業組合	障害福祉サービス事業所への廃電線無償提供事業
優良賞	大阪府電気工事工業組合	接地工事研修会～接地工事は保安の要！～の実施
優良賞	佐賀県電気工事工業組合	組合シンボルマーク、キャラクターデザイン リニューアル事業

大会式典では、優良事業工組表彰が行われた。金賞を受賞したのは埼玉県電気工事の「工業高校生電気工事士資格取得支援事業」。銀賞は新潟県電気工事と群馬県電気工事と熊本県電気工事、銅賞は三重県電気工事、四日市支部と島根県電気組と徳島県電気組が受賞。

「拾って覚える！実践電

## 優良事業表彰は12工組が受賞

### 優良事業工組表彰

#### 金賞は埼玉県電気組



左から金賞の埼玉県、銀賞の新潟県・群馬県・熊本県 銅賞の三重県・島根県・徳島県

第33回 全国大会

# 意見交換会

## 情報共有化を目指してディスカッション



意見交換会の主旨説明をした北陸電工連青年部連絡協議会 大地会長

化に向けた今後の人材確保と人づくり  
・テーマC 全日電工連60年の足跡から学ぶ我々が描くこれからの組合事業、社会の変化に対応した組合事業とは

10月16日、ホテル日航金沢で意見交換会が開催された。

近年、少子高齢化に伴う産業界の人材の取り合いや熟練電気工事技術者の退職など、人材不足が喫緊の課題として挙げられている。

また、AIやIoTに代表されるテクノロジーが「働き方改革」のソリューションの一つとして注目されるなか、「働き方」そのものが変化する時代となっている。

こうした環境の中、全日電工連は①業界づくり②人づくり③仕事づくりを念頭に各種事業を展開している。『近未来ビジョン』『青年部提言書2016』の具現化事業として『コンプライアンス研修会』の全国展開、『電気工事魅力発信サイト』構築による更なる業界認知活動などの諸施策を開始している。

講師で、全日電工連の沼尻芳治副会長は「今日の意見交換会で生まれた人脈は、皆さんの今後の人生の大きな糧となることと思う。本日いただいたご意見を基に、全日電工連は強く固い組織づくりを加速していくので、一層の協力をお願いする」と述べた。

今回の意見交換会は、左記のテーマに基づき実施することを北陸電工連青年部連絡協議会の大地正喜会長が説明を行い、参加者はこれを元にテーマごとに振り分けられたテーブルで意見交換に臨んだ。

翌17日の大会式典では大地会長が、「創立60周年を迎えた全日電工連は、激変する新しい時代に変化をもつて対応しなければならぬ。意見交換会に参加していただいた多くの青年部員と一致団結して変化を先取りし、時代の流れをつかみ組合の組織づくりを構築していくかなければならない。親会とともに今回の意見交換会を役立て、ぜひ実現していけるように頑張っていきたい」と意見交換会を総括。また、テーマごとの集約された意見を代表者が発表した(集約された意見は下記参照)。

- ・意見交換会は、
- ・テーマA デジタル革命がもたらす電気工事業の働き方の未来
- ・テーマB 地域電気工事業者への人材供給の活性化



講評を述べた全日電工連・沼尻副会長



### テーマB 発表者：石川県工組青年部 森川 昌志 部長 地域電気工事業者への人材供給の活性化に向けた今後の人材確保と人づくり

昨今の働き方改革に伴い、経済産業省・国土交通省とも連携しながら、週休二日制、有給休暇の取得も大事であるが、福利厚生を充実させながら、街の支え手としての使命と誇りを前面に押し出し、それを理解した保護者や先生が子どもたちに就職して欲しいと思ってもらえる魅力ある業界づくりが重要である。



また、定着率を改善するためには、現在でも初心者教育は行っているが、さらに進めて組合を活用した長期的な人材育成を行うシステムの構築が必要ではないかという意見があった。

認知度不足の改善については、SNSの影響力を鑑みて、全日電工連のスケールメリットを活かしたコラボ、他業界とのコラボという意見もあった。一般の人に電気を知ってもらうためにSNSやコラボを上手く使い、共感、共有してもらうことが有効ではないかとの声が多く聞かれた。

### テーマC 発表者：福井県工組青年部 谷口 崇 部長 全日電工連60年の足跡から学ぶ我々が描くこれからの組合事業～社会の変化に対応した組合事業とは～

全日電工連の設立から電気工事士法や電気工事業法制定に至った経緯、過去に実施してきた事業を学び、その後、各地で実施中の事業について成功体験をもとに現在を語り合った。さらに、今後組合としてどのような事を行っていくべきかの意見交換を行った。



組合加入の魅力を増やす、電気工事士の地位向上など様々な声が聞かれたが、なかでも組合員の拡大という言葉が多く出た。現在多くの工組にて、組合員数は右肩下がりであり、組合員の拡大は急務であるとする。組合に加入することのメリットを広く知らせ、未加入の電気工事会社の方々に興味をもってもらいたい。

組合最大のメリットは同業者同士の横のつながりだと思ふ。素晴らしい組合をさらに強力な組織にするために、皆で協力をしていきたい。

## 新しい時代に 変化を持って対応

### テーマA 発表者：富山県工組青年部 松田 卓 部長 デジタル革命がもたらす電気工事業の働き方の未来

近年よく耳にするようになったIoTやビッグデータ、AIは、現時点では電気工事業でそれらの活用方法や働き方改革に繋がるような事例は思った以上に少ない。



我々が日々行っている仕事は、案件ごとのケースバイケース的な要素が多く、そっくりそのままロボットが取って代わるには非常に困難であると考えられる。

もっと身近な未来、部分的なものからでも現在の仕事のやり方を考え直す、新たなデバイスを駆使することでデジタル革命を利用する、そして作業効率化と簡略化を実現し、生産性の向上を実現させていく。これが私たちの働き方の未来であると考えられる。我々はデジタル革命が電気工事業界の働き方改革に繋がるよう、全日電工連を主軸に各県の組合全体で取り組んでいく必要がある。令和元年を電気工事業の働き方改革元年とし、私たちの力で業界全体を盛り上げていきたい。

# 全国大会の思い出 ～フォトアルバム～

第33回 全国大会



今出大会実行委員長、米沢会長、稲垣実行副委員長



大会を裏で支えたスタッフ



北陸電工連・木下専務理事（左）  
と石川県電工組・時長事務局長



大会運営に尽力した部会長



台風19号による被害や影響が懸念されたが、復興支援を胸に全国から多くの仲間が金沢に集まった



全日電工連60年の足跡パネル・企業展示・業界PRコーナー・VR体験コーナーで賑わうおもてなしドーム地下広場には地元の高校生も訪れた



乾杯のあいさつをする  
パナソニック株式会社  
ライフソリューションズ社の  
道浦社長



金沢の伝統芸能を披露



60周年を記念して石川県へ電気自動車を寄贈



もてなし茶会



次回全国大会開催地の滋賀県をPR



大会参加者へ配布されたトートバッグと冊子

# 全日本電気工事業工業組合連合会のあゆみ

1957 全日本電気工事業協同組合連合会（現在の工業組合連合会の前身）設立総会。  
 会員数 全国の電気工事業協同組合69  
 初代会長 重宗雄三氏  
 主な事業として、電気工事士法、電気工事業法制定実現の為の活動。  
 1958 **全日本電気工事業協同組合連合会が通商産業大臣より設立認可。**  
 1959 連合会機関紙「全日連広報」を発刊。  
 1960 **電気工事士法制定。**  
 1961 二代会長に川上為治氏が就任。  
 1962 会長、理事長2頭体制。  
 会長に川上為治氏。  
 理事長に佐々木重利氏就任。  
 理事長に勝又正久氏就任。  
 1964 電気工事業法制定のため、組織的に請願活動を展開。  
 1963～1970 全日本電気工事業協同組合連合会を発展的に解散し、中小企業団体の組織に関する法律に基づく商工組合連合会として、  
 1966 **全日本電気工事業工業組合連合会設立（通商産業大臣認可）。**  
 理事長に林雪治氏就任。  
 理事長に米沢外秋氏就任。  
 1970 **悲願が実り、電気工事業法制定。**  
 1971 理事長制を廃止し、会長制。  
 米沢外秋氏が理事長から会長に就任。  
 1973 電線パニック危機突破全国大会を開催。  
**「家庭用電気設備安全運動月間」運動を全国的に開始。**  
 （現在は「電気使用安全運動」）  
 1975 電気工事士法改正促進運動を開始。  
 1976 共同保守管理業務開始  
 （電気事業法施行規則第67条が一部改正）。  
 1978 全日電工連政治連盟設立。  
 全日電工連設立20周年記念式典を挙行  
 1979 第三者損害賠償制度発足。  
 1981 グループ共済制度発足。  
 従来実施してきた「家庭用電気設備安全月間」運動を発展的に  
 解消し、通産省主唱の「電気使用安全運動」に参画。  
 1983 **創立25周年記念第一回電気工事業全国大会を開催。**  
 1984 電気工事士法改正に伴い、電気工事士試験の実施機関として、  
 通産大臣の指定を受け（財）電気技術者試験センターが発足。  
 当連合会も出捐団体として参画。  
 1986 電気工事士法改正に全組織を挙げて運動を推進。  
 1987 **電気工事士法改正法公布。**  
 1988 電気工事士法改正により、第一種電気工事士資格講習並びに  
 定期講習の実施機関として、通産大臣の指定を受け  
 （財）電気工事技術講習センターが発足。  
 当連合会も出捐団体として参画。  
**創立30周年記念第6回電気工事業全国大会を開催。**

1988 電気工事士法改正に伴う第一種電気工事士資格講習の開始を  
 前にして、（財）電気工事技術講習センターから事務委託を受ける。  
 1989～1990 第一種電気工事士資格講習実施。  
 1991 国民年金法改正により、厚生大臣の認可を受け、  
 全日本電気工事業国民年金基金を設立。  
 これにより、全国12の地区で実施する電気工事業厚生年金基金と  
 併せ、全ての電気工事業に従事する者に、年金基金加入の道が  
 ひらかれた。  
 1993～1997 第一種電気工事士に義務付けられる5年以内毎の定期講習が実施  
 され、約50万人を対象者に当連合会と日本電気協会が  
 （財）電気工事技術講習センターから事務委託を受け  
 全国47都道府県で実施。  
 1993 **創立35周年記念第11回電気工事業全国大会を開催。**  
 1997 全日電工連全国青年部協議会を設立。  
 1998 **創立40周年記念第15回電気工事業全国大会を開催。**  
 2001 米沢外秋会長死去退任。  
 徳住一郎氏会長就任。  
 2006 岸田進喜氏会長就任。  
 2007 小澤浩二氏会長就任。  
 2008 **創立50周年記念第25回電気工事業全国大会を開催。**  
 2011 小澤会長死去退任。  
 米沢寛氏会長就任。  
 2013 **災害時の情報提供・応急復旧に係わる全国電気工事（業）  
 工業組合連携協定締結。**  
 第30回電気工事業全国大会を開催。  
**今大会を機に、電気工事技能競技全国大会と電気工事業全国大会が  
 隔年開催となる。**  
 2014 福利厚生3事業の大幅リニューアル  
 中小企業組合の中でも最大規模クラスである当連合会  
 （全国36,000社）のスケールメリットを活かし、グループ共済制度・  
 第三者損害賠償制度・業務補償制度の3つの福利厚生事業  
 大幅リニューアルを実施。（募集開始）  
**第1回電気工事技能競技全国大会を開催。**  
 2015 第31回電気工事業全国大会を開催。  
 本大会より従来の電気工事業全国大会をリニューアルし、  
 情報交換や事例プレゼン等に要点を置いた  
**「組合員の道を拓く機会・気づき」の提供をメインに開催。**  
 2016 第2回電気工事技能競技全国大会を開催。  
 女性の部、高校生の部の創設。  
 2018 第3回電気工事技能競技全国大会を開催。  
 2019 平成26年からスタートした**業界理解促進交流事業**  
 （高校生・学生向け業界周知事業）における教育機関参加者数が  
 述べ20,000人を超える。  
**創立60周年記念 第33回 電気工事業全国大会を開催。**

1957→1970 昭和32年～昭和45年  
**第一期 創生期**  
 1955年に発生した新潟大火事件、その出火原因を電気工事関係者の工事ミスによる「漏電」とされた。  
 電気工事業を直接保護、規制する法律の制定を悲願として、当時の指導者は、努力と熱意を傾け全国を奔走する。  
 1960年に悲願の電気工事士法制定。  
 そして様々な苦難を乗り越えて1970年電気工事業法制定。

1971→1984 昭和46年～昭和59年  
**第二期 確立期**  
 悲願だった二法の成立後、1973年のオイルショックによる  
 電設資材の危機を組織の力で乗り切る。

1985→1998 昭和60年～平成10年  
**第三期 成熟期**  
 時代の変化に伴う電気工事士法の改正、そして会員数の増加、  
 念願の全日電工連会館の取得。  
 組織も成熟し、ますます発展していく。

1998→2008 平成10年～平成20年  
**第四期 成長期**  
 1999年、規制改革により広がったフィールド。  
 電気保安の確保を通じて、さらに施工品質の向上を目指す。  
 新たな技術への挑戦、そして後継者育成・・・  
 全日電工連50年の歴史と共に新たな一歩を踏み出す。

2008→平成20年～現在  
**第五期 変革期**  
**「業界づくり：動向と変革に柔軟な組織方策」「人づくり：人材確保と育成」**  
**「仕事づくり：頑張る組合員支援」の視点から全日電工連の事業を実行。**  
 変化する時代に遅滞することなく潮流を読み、  
 信念と情熱で常にスピード感のある全日電工連を目指して

2011年 東日本大震災 復旧工組が協定に基づき支援  
 2011年9月 第9代会長に米沢寛氏が就任  
 2011～2017年 工務部の取組み「ワーキング」「スマート（ワー）運動」展開  
 2014年 提案型技術営業を「スキルアップ研修」として新たな展開  
 2014年 業界理解促進交流事業の全国展開  
 ビジョン具現化「コンプライアンス研修」  
 2017年 「近未来ビジョン」 「青年部奨励書2016」策定  
 2014年 顔の見える業界を目指す～電気工事技能競技全国大会の開催